

輝電の郷づくり 新時代へのチャレンジ

竜王町の人口は平成7年の1万3650人をピークに減少に転じており、近年では1万2000人を下回り、年齢構成は今後さらに高齢化率が上昇し、子育てや働き世代が減少することが見込まれています。

これらは世帯の力、地域の力、まち全体の力を維持することがますます難しくなることを示しており、少子高齢化を伴う人口減少への対応は、今、竜王町の最大の課題といえます。

このような中、竜王町の「まちづくり」について、平成28年以降、町民の皆さまをはじめ、企業、まちづくり団体、専門家、国や県の関係者、有識者などの多くの方々にご議論いただき、完成したのが「竜王町コンパクトシティ化構想」と「竜王町グランドデザイン構想」です。



学校給食センター
竜王小学校区学童保育所
公園
こども園

コミュニティセンター

竜王小学校

竜王小学校の建設については、「竜王町の教育施設の今後のあり方についての検討結果」を踏まえて策定した「竜王小学校整備基本構想」において「**竜王らしくキラリと輝く「地域とともにある学校」づくり**」を整備のコンセプトとし、次の3つの基本目標を定めています。

- 1 あたたかさやさしさのある学校
- 2 学びがつながる・広がる学校
- 3 地域とともにある学校

このコンセプトと基本目標を具現化するため、竜王小学校建設基本計画策定委員会を立ち上げ、校舎、グラウンド、体育館、プールの配置や形状、大きさについて、さまざまな視点から検討を進めています。

現在、学校関係者、児童、専門家の意見も十分に伺いながら検討を進めており、年度内には竜王小学校全体についての基本計画を策定します。

ゾーン全体の整備の考え方

防災

新たに整備するコミュニティセンターや公園に防災機能を備え、小学校や給食センターと連携することにより、町全体の防災力を向上させます。

交通安全

ゾーン内には歩行者専用道路を整備し車両通行を制限することにより、子どもたちや利用者の安全を守ります。

駐車場

2カ所に共用の駐車場を設け、学校行事やゾーンのイベント時にも十分に駐車できるようにします。

浸水対策

浸水を想定した十分な盛土造成を行い、災害時には指定避難所としての機能を十分に発揮します。併せてゾーンからの雨水の排水を調整する調整池を設け、下流域へ影響が出ないようにします。

交流・文教ゾーン

整備イメージ

交流・文教ゾーンの整備促進

まずは、築51年となる竜王小学校の建て替えを急ぐことから、これを最優先に、「教育」と「交流」に関する施設を「交流・文教ゾーン」として集約して整備します。

新小学校の令和7年度の開校をめざし、各施設を順次整備していきます。ゾーンとして一体的に整備することにより、施設間の連携や交流の強化が期待できます。

併せて、ゾーン内は車両通行を制限することで子どもたちの安全を守ります。また、ゾーン内に防災機能を付加することによりまち全体の防災力を高めます。

次の段階としては、新しい教育施設と交流施設が集約された子育て世代に魅力的な交流・文教ゾーンが整備されることをきっかけに「竜王町コンパクトシティ化構想」に基づき、交流・文教ゾーンの周辺に計画している居住ゾーンや複合ゾーンの整備を進め、魅力ある中心核エリアを形成します。

Information! 2月開催

まちづくり懇談会

まちの現状と、これからのまちづくり、竜王町コンパクトシティ化構想について、町民の皆さまと共有するための「まちづくり懇談会」を2月に開催します(事前申込制)。詳しくは広報2月号の折込チラシをご覧ください。

